

天神段遺跡

- 1 所在地 曾於郡大崎町野方
- 2 起因事業 東九州自動車道建設
- 3 調査年度 平成19年～
- 4 主な時代 旧石器時代, 縄文時代, 古代, 中世
- 5 遺跡の概要

天神段遺跡は、大隅半島中央部の標高約200mの北東と西側に大きく落ち込むシラス台地の縁辺に位置します。東九州自動車道建設に伴い、平成19年度から発掘調査が実施され、本年度で7年目を迎えます。これまでに、旧石器時代から中世に至るまで幅広い時代の遺構・遺物が発見されています。

6 注目される成果

(1) 縄文時代早期

これまでの調査で、早期前半（約8,500年前）の竪穴住居跡8軒や連穴土坑10基以上が見つかっています。また、早期全体で集石は300基以上見つかり、長期間にわたり人びとが生活していたことが分かってきました。

(2) 縄文時代前期

平成24年度の調査で、アカホヤ火山灰層上で縄文時代前期の石剣が出土しました。頁岩素材で、最大長35cmあり全面が研磨されていました。しかし、先端部や側面を鋭利に加工しておらず、狩猟等に用いる実用品とは言い難く、祭祀などの儀式に用いられたと考えられます。このような特徴は、東日本で見られることから、何らかの交流があった可能性も考えられます。

この石剣は、現段階における西日本最古級の石剣であり、東日本との関わりも考えられる貴重な資料と評価されています。

(3) 中世の土坑墓

平成19年度の調査では、2基の土坑墓が並んで発見されています。どちらも南北方向を向いた長方形の墓で、特に、左の写真手前の土坑墓からは、多数の完全な形の副葬品が発見されました。



中世の土坑墓

